

# 自然を破壊するバイパス計画に反対する

——「道々羊ヶ丘通」の問題点——

高 畑 滋

## 「羊ヶ丘通」とは

一九六六年に都市計画道路の認定をとつてある幅三二m、六車線、日通行量四万台という大型自動車用道路です。ルートは、大曲のインターチェンジから里塚・羊ヶ丘・福住・西岡を経て平岸で環状線につながるものです。里塚公園と平岸公園をつないでいる道路なので、俗に「公園バイパス」と呼んでいますが、なんとなく不吉な響きをもった道路です。これは、国道36号線のバイパスとしての性格をもち、苦小牧・千才・恵庭と札幌をつなぐ産業道路です。札幌郊外の新興住宅団地の真栄や清田は通らずにこの付近では市街化調整区域を通り、羊ヶ丘の農試験場の中心部を分断し、福住・西岡では住宅地の真中を貫いています。自動車を一分でも早く中心地に到達させよ

う、という考えから計画された路線です。

## 貴重な緑地帯が失われる

自然保護団体としてまず反対しなければならぬのは、この道路が札幌市にとって貴重な緑地帯の一つである羊ヶ丘風致地区を分断することです。ここは北海道農業試験場として、国民の生活に欠かせない食糧を中心とする農業の研究機関で、研究の性格上自然条件が厳密に守らなければならないところなのです。そのために、一般市民にとっても憩いの場・教育の場となる一大緑地帯を形成しています。年間四〇万人の人が訪れる羊ヶ丘展望台は、牧歌的風景が楽しめる唯一の場所として有名です。広い草原を利用した「市民レジャードの日」には、遊園地にはない本物の自然を相手に大勢の市民が楽しんでいきます。試験場への見学者も

農業関係者にも増して、近隣の小学生が農業の勉強・自然の観察でくることが多くなっています。札幌市にはこのような大きなかたまりとしての緑地帯は、円山・藻岩山を除いてほかはありません。

都市域には珍しいヒメカユウが自生していますし、日本でただ一カ所・羊ヶ丘でしか存在が確認されていないカスミムグラという植物は、計画路線の近くにあります。

羊ヶ丘一帯は、風致地区と鳥獣保護区に指定されています。農林業における日本最大の研究機関がその使命を達せられるように、同時に札幌市にとって貴重な緑地帯として守るよう保護規制されているところなのです。

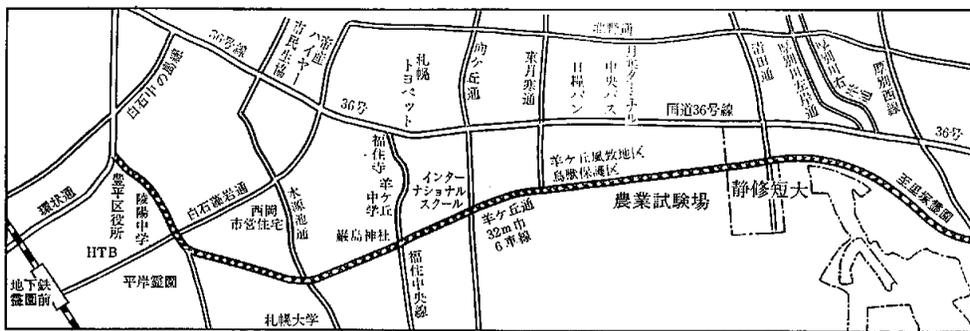
## 地域住民の生活が破壊される

この道路が真中を通ることになる有楽団地や福住・西岡の住宅街の人達は、「せっかく静かなところに越してきたのに」と反対しています。バイパスによる騒音や震動排気ガス、塵埃は住宅地にとっては致命的です。自動車道路の周辺では八〇フォンくらいになるのが普通ですが、住宅地域での騒音規制は四〇フォンです。計画では道路の両側三〇mずつを住宅専用地域からはず



国道36号線一月寒ターミナル付近、朝8時30分  
中心地へ向かう車

豊平区の都市計画道路の一部



\*\*\*\*\*が羊ヶ丘通

していますが、これなどは道路の都合にあわせて利用区分でしかありません。

住宅地域としては、生活圏の分断ということも大きな障害となります。毎日の買い物や通園・通学にバイパスを渡らなければならないのは大変です。国道36号線でも交通事故が何件か起きてはじめて信号がつけられるようになりましたが、まだまだ歩行者保護の施設は不十分で、子供や年寄りの交通事故が心配されています。

生活道路の整備を急げ

西岡付近は最近宅地開発されたところで住宅地の道路は全然整備されていません。舗装はおろか側溝も砂利もはいつていない状態で、春先の融雪期には泥沼になります。下水がないので低地には冠水の危険があり、家がたくさん建つにつれて井戸水が出なくなっています。このようなところでは、バイパスを百億円もかけて造る予算があるなら私達の道路を市道にして、舗装、上下水道工事をしてくれ、除雪も市でやってくれ、ミニバスでもよいから公共輸送機関を通してこれという要望が強く出されています。生活基盤の整備を重点に都市計画をたてないで、大企業本位の産業道路を優先させるやりかたは、改めさせなければなりません。

道路にあわせた交通規制をすべし

国道36号線の混雑はたしかに深刻です。沿線の住民が受ける苦痛も大きいと思われまます。しかし、自動車公害はバイパスを作ればそちらのほうにも拡がるだけで、根本的な解決にはなりません。いまの混雑もよくみてみると、朝八時半頃のラッシュ時に上り線が渋滞するのが特徴です。札幌市の都市構成は典型的な都心中心型で、旧市街地一点にすべての機能が集中するようにな

っています。この部分の道路率(全面積中の道路面積)は三三%に達していますが、すべての車がここに集まってくるラッシュ時には飽和状態になります。ちょうど中味が一杯の容器にいくら入口を増やしても物はいらないように、市内にはいるどの道路も渋滞することになります。これは、バイパスをつけても解消されないどころか、都心での混雑を激化させるだけです。いくらでも生産できる自動車の数にあわせて道路をつくるというのは無理な話で、

「羊ヶ丘通」に関するアンケート(500戸配布) 太字数字は返答数

- 道々羊ヶ丘通(以下バイパスと略称)のことを知っていますか。  
(イ)知っている **110** (ロ)知らない **8**
- バイパスのことを何で知りましたか。  
(イ)新聞テレビ **21** (ロ)町内会 **45** (ハ)羊ヶ丘自然愛好会のピラ **31** (ニ)その他 **29**
- バイパスができることによって生活環境に悪影響が出てくると感じますか。  
(イ)ある **100** (ロ)ない **15**
- どのような影響が考えられますか。  
(イ)騒音 **94** (ロ)排気ガス **80** (ハ)震動 **51** (ニ)交通事故 **61** (ホ)横断の困難 **54** (ヘ)住宅の損傷 **31** (ト)人の健康 **58** (チ)緑の減少 **65** (リ)その他 **6**
- 国道36号線の交通混雑を緩和するにはどうすれば良いと思いますか。  
(イ)交通規制をする **17** (ロ)公共交通機関の充実 **38** (ハ)バイパスをつくる **34** (ニ)地下鉄の建設 **77** (ホ)その他 **8**
- 風致地区、鳥獣保護区、住宅地を通るこのバイパスの建設についてどう思いますか。  
(イ)賛成 **24** (ロ)反対 **83** (ハ)わからない **6** (ニ)どちらでもよい **4**
- 自然保護また羊ヶ丘自然愛好会に対する意見。

有限の土地にあわせて通行できる自動車の  
ほうを制限するのが当然です。混雑してい  
る36号線でも、ラッシュ時の大型トラック  
乗入れ禁止などの時差利用をはかることは  
効果があると思います。地下鉄など大量輸  
送機関の整備によって、マイカー通勤をし  
なくてすむようにすることも重要な施策の  
一つでしょう。

### 住民参加の計画づくりを

羊ヶ丘自然愛好会では、この路線の早期  
建設の請願が市議会で審査された一九七五  
年十二月六日以後反対運動を強め、いまま  
でに「住宅地を破壊するバイパス反対」  
、「バイパスは住民の要望ではない」という  
二種類のビラを周辺の住宅地にまいていま  
す。何よりも私達を驚かせたのは、計画路  
線付近の人達が全然知らないことでした。  
ビラをもらってはじめて知った。住宅街に  
こんなバイパスを通すのも無茶なことだ  
が、住民をツンボ状態においておくとはも  
つとけしからん、という意見が多く出され  
ました。身のまわりの道路の貧弱さにくら  
べれば、6車線自動車道路は立派すぎま  
す。おまけにいままで述べてきたような問  
題点があるということで、反対の気運が盛  
りあがってきています。ここらはひとつ住  
民の意向をしつかり聞いて、住民参加の計

画づくりをしてもらいたいものです。

今度の道路計画が住民の要望によるもの  
だといわれますが、私達がおこなった次の  
ようなアンケート調査の結果をみても、決  
して地域住民はバイパス建設を望んではい  
ないのです。

### アンケート調査の結果から

一九七六年四月に、計画路線沿線の住民  
の意見を求めるアンケート調査をおこない  
ました。結果は表のとおりです。これには  
羊ヶ丘住民は除いてあります。それは全域  
固有地で官舎街という特殊な状況にあるた  
め周辺の集計結果とまぜることは無理だと  
判断したためですが、羊ヶ丘地区ではほぼ  
全員がバイパス反対でした。建設促進派の  
主張が、固有地にバイパスを通させないた  
めに周囲の住民が迷惑をうけているという  
ものでしたので、アンケート調査のうち周  
囲の住宅地の部分だけで集計してみました  
のです。同じ羊ヶ丘周辺住宅地といつて  
も、西側(福住・西岡地区)と東側(有楽  
団地)とでは全然反応がちがいます。高級  
住宅団地として造成され、上下水道・舗装  
道路・外灯などが完備し、家が建ちはじめ  
てから五・六年という有楽団地では、当然  
のことのように反対の気運が強く出ていま  
す。いっぽう、あらゆる都市施設から縁遠

い状態の西岡地区では回収率も低く、住民  
意識としても弱いと判断しました。

全体を通して、回収率二五%弱、このう  
ち八六%の人がバイパスで環境が悪化する  
と考えており、七一%の人がはつきり建設  
反対を表明しています。賛成の人達も騒音  
や排気ガス公害を強く心配して対策を要望  
しています。また、バイパスによる緑の減  
少を指摘する人達も多く、緑地帯をつぶし  
てまで道路をつくるべきでない、というの  
が周辺市民の声です。

### §

以上、このバイパスの問題点をいくつか  
あげましたが、要するに、貴重な緑地帯を  
つぶしてまで通す道路ではないと思いま  
す。

自然保護協会としては、今後頻発するで  
あろうこの種の問題について個々の事例を  
解決させながら、都市内の自然保護につい  
ての考えかたを固めていかなければならま  
せん。会員の皆様も、それぞれご自分の身  
のまわりの自然について注意をしていただ  
き、どんな小さな問題点でもとりあげてく  
ださい。それらに共通して、きつと大きな  
問題が陰に横たわっているのではないかと  
思います。自然保護協会というのは、みん  
なで一緒に考える場所なのです。